巻　頭　言

理事長再任のご挨拶

本間研一
北海道大学医学研究科生理学講座

昨年の時間生物学会理事選挙および理事会における選挙で、理事長に再選されました。微力ですが日本時間生物学会の運営に最大限努力する所存でおりますので、よろしくお願い申し上げます。第２期目も、柴田重信事務局長はじめ理事の先生方、そして会員の皆様のご協力を頂きながら、学会の更なる発展に貢献できればと考えております。

日本時間生物学会は、1995年、生物リズム研究会と臨床時間生物学研究会が合併して設立された学際的学術団体として、着実に発展していると考えております。３年前、理事長に就任するにあたって３つの課題を申し上げました。第１は学術集会をさらに充実させるとともに、学生会員や初学者のためのセミナーの開催や時間生物学の教科書の発刊を提案しました。また、関連する他学会との交流促進も掲げました。第２は学会の国際化推進で、特に世界時間生物学会連合（WFSC）の発展に寄与することをあげました。第３は、学会の社会的貢献に関することで、益々劣悪になる光環境やサマータイム制度などについて積極的に発言していくことを提案しました。この３年間を振り返ってみますと、学術集会は、2005年（筑波大会）では一般口演（ポスター）が114題、2006年（東京大会）は国際生物学賞の受賞記念国際シンポジウムとの連携開催で、一般口演（ポスター）が100題、2007年（東京大会）は第２回時間生物世界大会（WCC）および日本睡眠学会との連携大会で、一般口演（ポスター）は外国からの参加も含めて147題と、いずれの学術集会でも100を越える一般演題が集まり、学会員の活発な活動が認められます。また、国際生物学賞受賞記念国際シンポジウムや第２回WCCとの連携など、国際性も高まっています。特に2007年の睡眠学会との合同大会では、800名を超す参加者が時間生物学会関連発表に集まり、合同大会の長所が遺憾なく発揮されました。さらに、2009年10月には、日本睡眠学会やアジア睡眠学会との連携大会（大阪大会）が計画されており、また、同じ年の８月にストラースブルク（フランス）で開催されるヨーロッパ時間生物学会の学術集会に、日本時間生物学会が共催学会として参加することになっております。

一方では、積み残した課題もありました。初学者向けのセミナーは二期目に是非実現したいと考えております。また、光環境やサマータイム制度の生体リズムや健康に及ぼす影響についても、学会として対応したいと考えております。

最後になりましたが、学会員の皆様の更なる発展を祈念致しまして、理事長再任のご挨拶とします。

平成20年１月　記